

人権とは・・・

「人権」というと、どうしても、特別なこと、難しいこと、堅苦しいことといったイメージを思い浮かべがちです。

しかし、「人権」は私たち一人ひとりにとってかけがえのないとても大切なものであり、誰もが生まれながらにして持っている、誰からも侵されることのない、人として幸せに生きていくための当然の権利です。

また、日頃からの思いやりの心によって守られるものであり、だれもが心で理解し、感じることでできるものではないでしょうか。

お年寄りが疎外されたり、いじめや体罰の問題、子どもに対する虐待、性別の違いや同和地区出身という理由による差別、障害のある人、外国人、ハンセン病などの感染症患者、同性愛者や性同一性障害者に対する偏見や、犯罪被害者やそのご家族に対しての興味本位のうわさや中傷、また、拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害や2011年の東日本大震災に伴う風評被害による差別など様々な人権にかかわる問題が起きています。

私たちは、誰もがみな幸せに生きたいと願っています。同時に、家族や友人などまわりの人々の幸せも願っています。すべての人々が幸せに生きていくために、お互いの人権を尊重し、思いやりを持って相手と接する、心豊かな人間関係を築いていきましょう。

【世界人権宣言】

(1948年12月10日第3回国際連合総会で採択)

第1条 すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である。人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神を持って行動しなければならない。



人権イメージキャラクター
人KENまもる君

人権イメージキャラクター
人KENあゆみちゃん

みんなで築こう 人権の世紀



©石川県観光連盟

木場潟からの白山



石川県総務部人権推進室

TEL.076-225-1235

<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/soumu/>

石川県人権啓発活動ネットワーク協議会



このリーフレットは再生紙を使用しています。

考えよう
相手の気持ち
育てよう
思いやりの心



2015年新成人に贈る人権メッセージ



石川県知事
谷本 正憲
たにもと まさのり

新たに成人を迎えられた皆さんに、心からお祝いを申し上げます。

二十歳という年齢は、周囲から大人としての自覚と社会に対する責任ある行動がこれまで以上に求められることとなる、人生における大きな節目です。

「人権の世紀」と言われる21世紀に入り、10年以上が経ちましたが、今なお、いじめや児童虐待、高齢者や障害のある方などに対する差別や偏見など、人権を無視した事例が後を絶ちません。また、スマートフォンを利用してインターネット上で他人を誹謗中傷するといった、新たな問題も発生しています。

こうした状況の中で、私たちが差別や偏見のない社会を築いていくためには、一人ひとりが自分自身をかけがえのない存在であることを自覚するとともに、自分以外も同様に大切な存在であることを心に刻み、お互いを尊重し合う「思いやりの心」が大切です。

『論語』に「己の欲せざる所、人に施す事なかれ」という言葉があります。自分がされて嫌なことは人にもしてはいけないという意味ですが、いつの時代においても、相手の立場になって考える「思いやりの心」を忘れてはいけないということを、現代に生きる我々にも伝えてくれています。

これから大人の仲間入りをした皆さんが、新たな時代を築いていくためには、困難なことにも積極果敢にチャレンジする勇気や的確な洞察力、行動力が求められますが、もう一つ、「思いやりの心」を持って、その若い力を大いに発揮されることを心から期待しています。

新 成 人

大人への第一歩のために

島畑 綾香 (小松市)



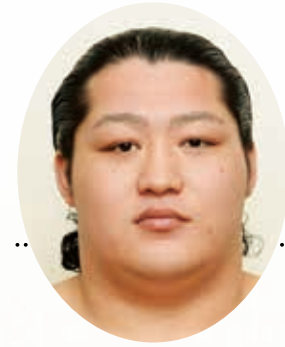
私は街で見かけて、とても印象に残っている広告があります。その広告には、「みんなちがうから世界は楽しい」とあり、その通りだと思いました。現在、約72億人がこの世界に存在していて、それぞれの顔や性格、個性があり、全員に人権が与えられています。最近のニュースで人種差別という言葉聞き、広告の言葉を思い出しました。みんな違うのが当たり前で、私の友達や知人にも色々な人がいます。みんな違うから面白く、いつも楽しいです。いつも楽しませてくれる周りの人々に感謝しています。今日、成人式を迎える全員が大人の仲間入りです。私は、正直これまで人権について深く考えたことはありませんでしたが、家族、友達、これから出会う人々を大事にし、助け合い、一人ひとりを尊重できる思いやりのある大人になりたいです。今日から、少しずつですが大人の階段をのぼりはじめようと思います！

思いやる気持ち

三野 浩太郎 (中能登町)



私の周囲には家族を始め、たくさんの友達など大切な人がいます。私にとって、家族、友達が困っているときは、手助けをするのが当たり前だと思っています。それを見ず知らずの他人に同じように接することが社会へ出て、重要視されるのかもしれない。私が高校へ電車通学していた時、見ず知らずの人に席を譲りました。そこで感じたのは、席を譲ったことで、相手の方から「ありがとう」と感謝され、何気ない行為でありましたが、人を思いやる気持ちを知ることができました。成人したばかりの私たちには、これから何度も大きな壁に当たるかもしれません。しかし、そういう中でも思いやる気持ちを忘れずに、人と人が支え合えるように心掛けていきます。



大相撲力士
遠藤 聖大
えんどう しょうた

「相撲は礼に始まり礼に終わる」とよく言われます。土俵に上がり互いに一礼するのに続き、蹲踞(そんきょ)しながら「塵(ちり)を切る」動作には、清めと手に何も隠していないという意味があります。そして、取り組み後、また一礼をして土俵を降ります。

このように相手を敬うのは、相撲は相手がいなければできないスポーツだからであり、相手がいるからこそ自分の力が発揮できます。相手に勝つのはあくまでも結果にすぎません。一番大事なことは「自分に勝つ」ことなのです。

そのためには苦しさに耐え、努力するしかありません。楽な稽古はありません。しんどくて休みたいと思ったり、さぼったりしたいという誘惑と戦いながら、辛いことにくじけず立ち向かう精進の先に、栄光があるのだと思います。

そして、勝つ喜びと負けた悔しさを知るからこそ、負け人への思いやりがいかに大切かが分かります。それと感謝の気持ちです。今日、無事に土俵に上られる陰で、本当に多くの人に支えられていることを忘れてはいけないと、自らを戒めています。

成人を迎えられた皆様、自分で選んだ道に勇気を持って歩を進めてください。困難が待ち受けているかもしれませんが、あきらめたら負けです。一生懸命なあなたに、手を差し伸べてくれる人がきっと現れるはず。それを信じて、僕も皆さんとともに頑張りたいと思います。

